

気候変動適応広域アクションプラン 「釧路湿原等のEco-DRR機能の保全」 フォローアップ業務の改善提案について

日本エヌ・ユー・エス株式会社

広域アクションプランのフォローアップ業務の活動内容の改善について

目的

令和4年度に策定した北海道の広域アクションプラン「釧路湿原等のEco-DRR機能の保全」（以下、広域アクションプラン）の活用を含むEco-DRR（生態系を活用した防災・減災）の普及・実装を目的として、令和5年度に実施した自治体ヒアリング及び令和6年度に実施した現地見学会（講演会を含む）の結果を踏まえ、今後における普及・実装に向けたフォローアップ業務の活動内容の改善の方向性について提案する。

令和5年度及び令和6年度のフォローアップ業務の活動内容

令和5年度

ヒアリング調査

広域アクションプランの策定の際に関わりのあった4自治体を対象に、広域アクションプランの活用に関するヒアリングを実施。自治体職員から挙げた意見（抜粋）は以下のとおり。

- 国内の似た事例の紹介や将来予測の情報が増えることが望ましい。
 - 具体的な将来の姿を知り、行動変容に繋げたい。
 - 気候が類似している、または地形や規模が似ている地域の事例を参考としたい。
- 気候変動適応に繋がる、他の施策についての情報が必要である。

令和6年度

普及啓発

文献調査

自治体職員が生態系の保全・再生を通じて防災・減災や生物多様性を含めた地域の課題を複合的に解決しようとする取り組みを身近に感じられるように、生態系を活用した防災・減災が実装（機能）している場所の現地見学会を実施。見学場所は以下の4カ所。

- ① 水と生きものの郷 トウ・ペツ
- ② しのつ河畔林
- ③ 石狩川下流幌向地区自然再生地
- ④ 砂川オアシスパーク（砂川遊水地）



図. R6年度見学場所₁
(位置図)

フォローアップ業務の活動内容の改善の方向性

今後のフォローアップ業務の活動（ヒアリング調査、文献調査、普及啓発等）について、これまでの調査を踏まえて検討した改善の方向性は以下の表に示す通りである。

主な課題	内容	改善の方向性
データの不足	取組の構想段階において、や効果を定量的に評価するためのデータが不足している場合がある。特に長期的なデータが必要であり、これがないと効果の測定や証明が困難。	【情報収集・整理（文献調査等）】 地域で活用可能な全国的に整備されたデータに関する情報を提供する。
実施コスト	Eco-DRRの取組には初期投資や維持管理コストがかかる場合があり、予算の確保が課題となることがある。特に地方自治体や小規模なコミュニティでは、資金調達が難しいことがある。	【情報収集・整理（文献調査等）】 地域で活用可能な補助金等の情報を収集し、提供する。
効果の定量化の難しさ	Eco-DRRの効果は長期的に現れることが多く、短期的な成果を求める場合には不向きである。持続可能な取組を維持するためには、長期的な視点とコミットメントが必要。	【情報収集・整理（文献調査等）】 定量評価を行った様々な事例を紹介し、各地域の事情に類似した情報を提供する。
長期的な視点の必要性	Eco-DRRの効果は中長期的に現れることが多く、短期的な成果を求める場合には不向きである。	【普及啓発】 中長期的な取組にEco-DRRの考え方を取り入れてもらえるような普及啓発などの情報発信を行う。
多様な利害関係者の調整	多様な主体が関与するため、利害関係者間の調整が必要であり、合意形成に時間がかかることがある。	【普及啓発】 事業や市民を対象とした見学会などの普及啓発などの情報発信を行う。
地域特性の違い	釧路湿原等の事例が他地域にそのまま適用できるとは限らず、地域特性に応じた調整が必要。各地域の気候、地形、生態系の違いを考慮した適応策が求められる。	【情報収集・整理（文献調査等）】 様々な事例を紹介することで、各地域の事情に類似した情報を提供する。